

The New York Times



飼い主による毎日のしつけが一番大事



セルフトレーニング vs. プロのトレーナー

トレーナーにお金を払った時間をかけたりする必要があるのか、自分たちで本を読んだりテレビや本で勉強したりして愛犬をトレーニングできるのではないか、

今回は、パピーミルという大変重い話題に取り組んでみようかと思っています。少し前に日本でも環境省が「パブリックコメント（国民の意見）」を募集して、パピーミル業者の事業改正案が話題に上りましたね。これはみんなですっかり考えたい問題です。どうぞお楽しみに。

必要なガイダンスを提供できるツールのようなものです。

愛で問題解決！

愛犬のトレーニングに関する問い合わせの際に、よく「どのくらい預けたら賢い子になって戻ってきますか？ その費用は？」と聞かれます。問い合わせの問題行動に応じて適当な日数を伝え、費用をいただき、犬を訓練してお返しすればいいのですが、それは私に言わせると悪徳です。いつも絶対にお断りするというわけではありませんが、私はそれでは愛犬トレーニングの根本から外れてしまうと説きます。

自分が生んだ子供を誰かに預けっぱなしで、優秀でお行儀良く育ててもらおうと思う親はあまりいませんよね。それと同じで、愛犬は飼い主自身がトレーニングすべきなのです。確かにアメリカでも一昔前は、数週間から数カ月トレーナーが学校に預けて訓練をゆた

ただ、犬のトレーニングで忘れてはいけないのは、飼い主の努力なしでは何も解決しないということ。専門家にお願ひすれば魔法をかけてもらったかのように一気の問題解決というわけではなく、むしろ飼い主のやる気と継続力が試されます。まず一番大事なのは、問題があることを認識できること。それさえできれば、あとは忍耐と愛で問題解決！

ねる方法が主流で、日本では今もそういう傾向があると聞いています。しかし、一生一緒に暮らす飼い主（ペットの親）が愛犬のしつけというものの根本を理解できていなければ、犬にとって大切な一貫性を提供できません。人間の子供には継続的に外に出て刺激を受ける機会があり、万が一親が教育を怠っても一応よそで学ぶ機会がないわけではありませんが、犬は違います。犬は飼い主を絶対の師としてるので、教師になれるのは飼い主だけ。

私が一方的に師匠とあがめるカリスマドッグトレーナーのシーザー・ミランも言っています。私たち犬の行動学専門家がトレーニングするのは、実は犬ではなく飼い主なのです。愛犬をトレーニングできるような人間教育が仕事ということ。すなわち、私たち専門家は、飼い主が愛犬と暮らす中で問題にぶつかった際に必要なガイダンスを提供できるツールのようなものです。

寺口麻穂
ドギーパラダイス!
犬と人間の快適な生活
第26回

トレーナーの必要性

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わり、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供している。愛犬ジュリエットが他界した今は、ニューヨークに移転して活躍中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com



てらくちまほ

とお考えの方も多いいと思います。確かにできないことはありません。しかしたとえば、こう考えてみてください。一生懸命減量しようとしている時、自分一人でやってもリバウンド続きに終わってしまい、期待した結果が得られないことが多いのではないのでしょうか？ それがおかのプログラムに則って忠実に実行すると、効果は大。それと同じです。専門家から学ぶと、ガイダンスと情報、また問題が発生した時にシェアする場が得られるというわけです。病気になる時も同様です。ネットや本で症状を調べ、なんとか病名や治療法を探しあてられることもあります。それが外れていけば大事に至ったり、治るべきものも治らなかつたりします。犬の問題行動解決も同じです。自分では「こうだろう」「こうしたらいいだろう」と思っていることが、実は専門家の目から見れば大きく正解から外れてしまっていることがあります。そのためになかなか解決しない。するとフラストレーションがたまると。犬にも飼い主にも悪影響が及ぶ。それならば専門家の意見を聞いてみるのが解決への早道、という場合が多いのです。